

三条市公共交通について(案)

～利用状況と来年度の対応について～

目次

◎運行内容のおさらい	1
1 利用者数等の実績	3
2 ひめさゆりお客様アンケート	9
3 目標達成状況	16
4 来年度の対応とスケジュール	17

平成24年2月23日(木)

◎ 運行内容のおさらい



井栗地区コミュニティバス

※社会実験継続中

高校生通学ライナーバス

※平成23年4月1日より本格導入

三条市デマンド交通「ひめさゆり」
三条市全域

※平成23年6月1日より本格導入

◆ 三条市デマンド交通ひめさゆり 本格運行後(H23年6月～)の新設移設停留所

エリア	No.	停留所名	区分
市街地	160	北入蔵	移設・名称変更
市街地	220	田中内科クリニック	新設
市街地	221	市営曲淵住宅	新設
市街地	222	第三中学校グラウンド前	新設
市街地	223	林町	新設
北	346	真和工業	移設
北	347	沢田団地	移設・名称変更
北	384	牛ヶ島	新設
南	512	川通保育所	移設
南	534	千把野ふれあいセンター	移設
南	536	ショートステイさかえ弥生	移設
南	553	帯織郵便局	移設
南	588	半ノ木(中)	移設
南	617	佐久間歯科医院	新設
下田	819	元長沢堤前	新設

停留所設置箇所 610箇所
(平成24年2月23日現在)

◆ 三条市デマンド交通(刈谷田線代替運行)の輸送実績

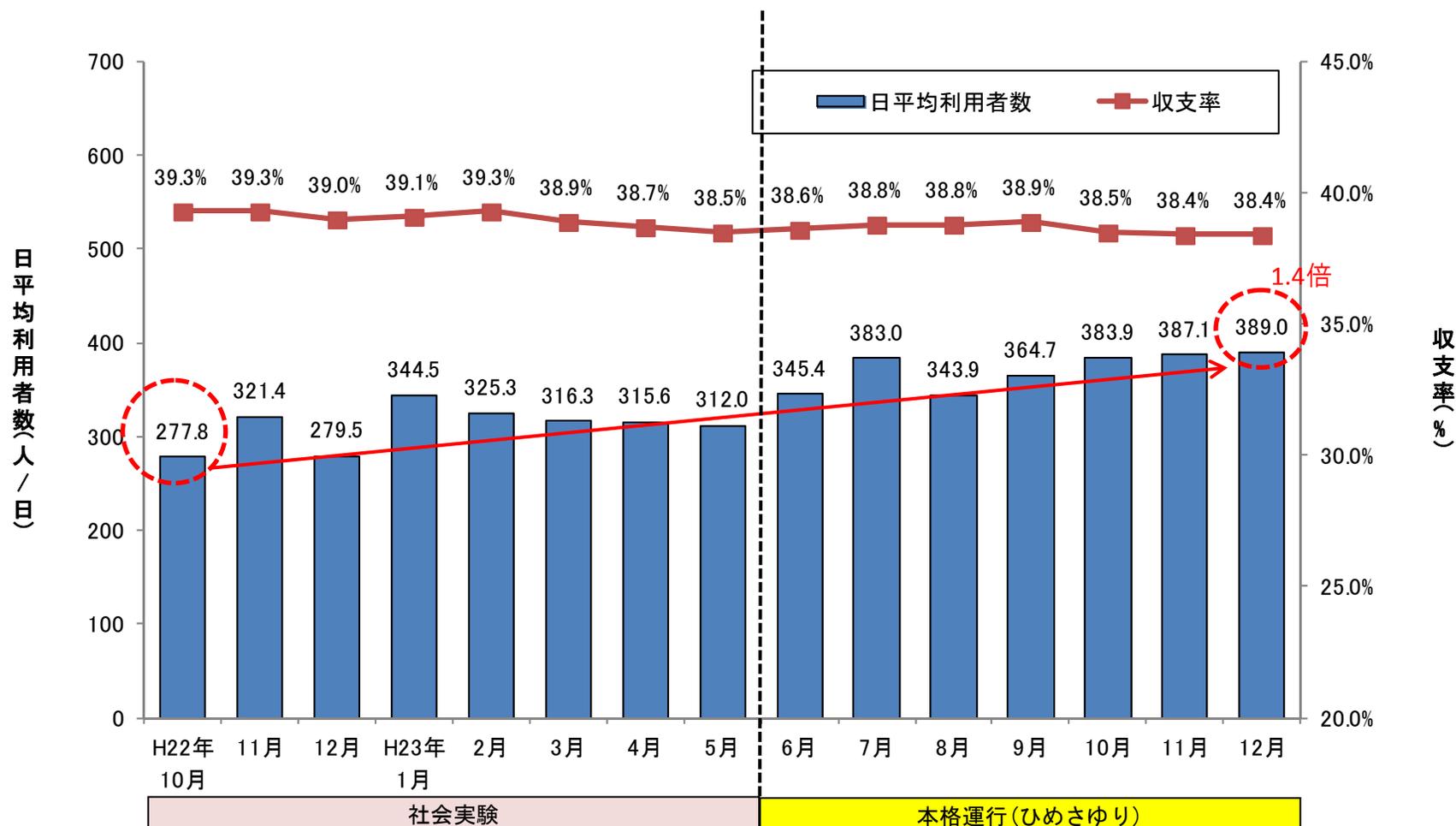
輸送人員 2名

1 利用者数等の実績

1.1 三条市デマンド交通の実績

(1) 日平均利用者数と収支状況

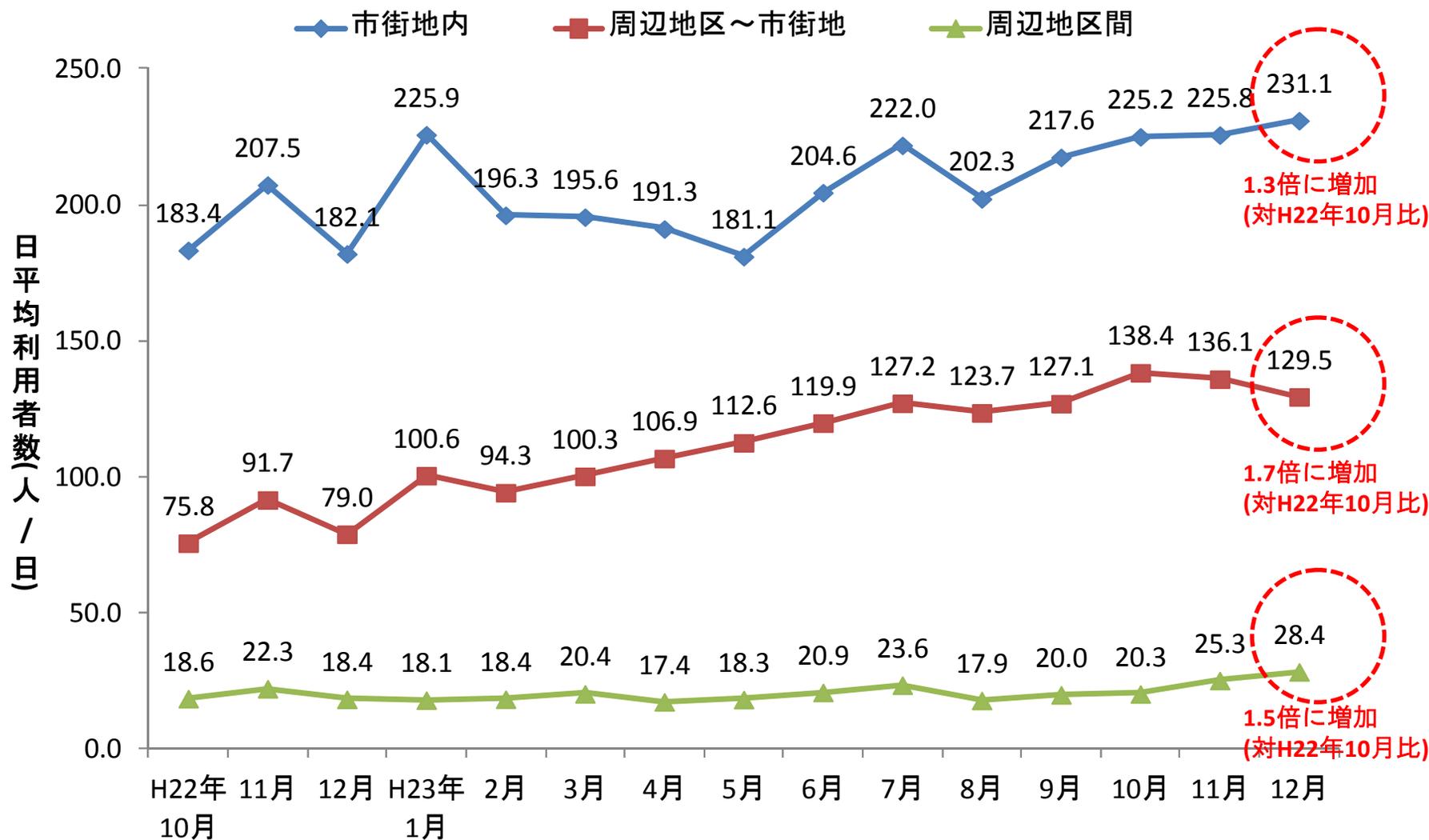
- 利用者数はH22年10月から約1年経過し1.4倍に増加。
- 収支率は微減。



1 利用者数等の実績

(2) 起点終点別の利用状況

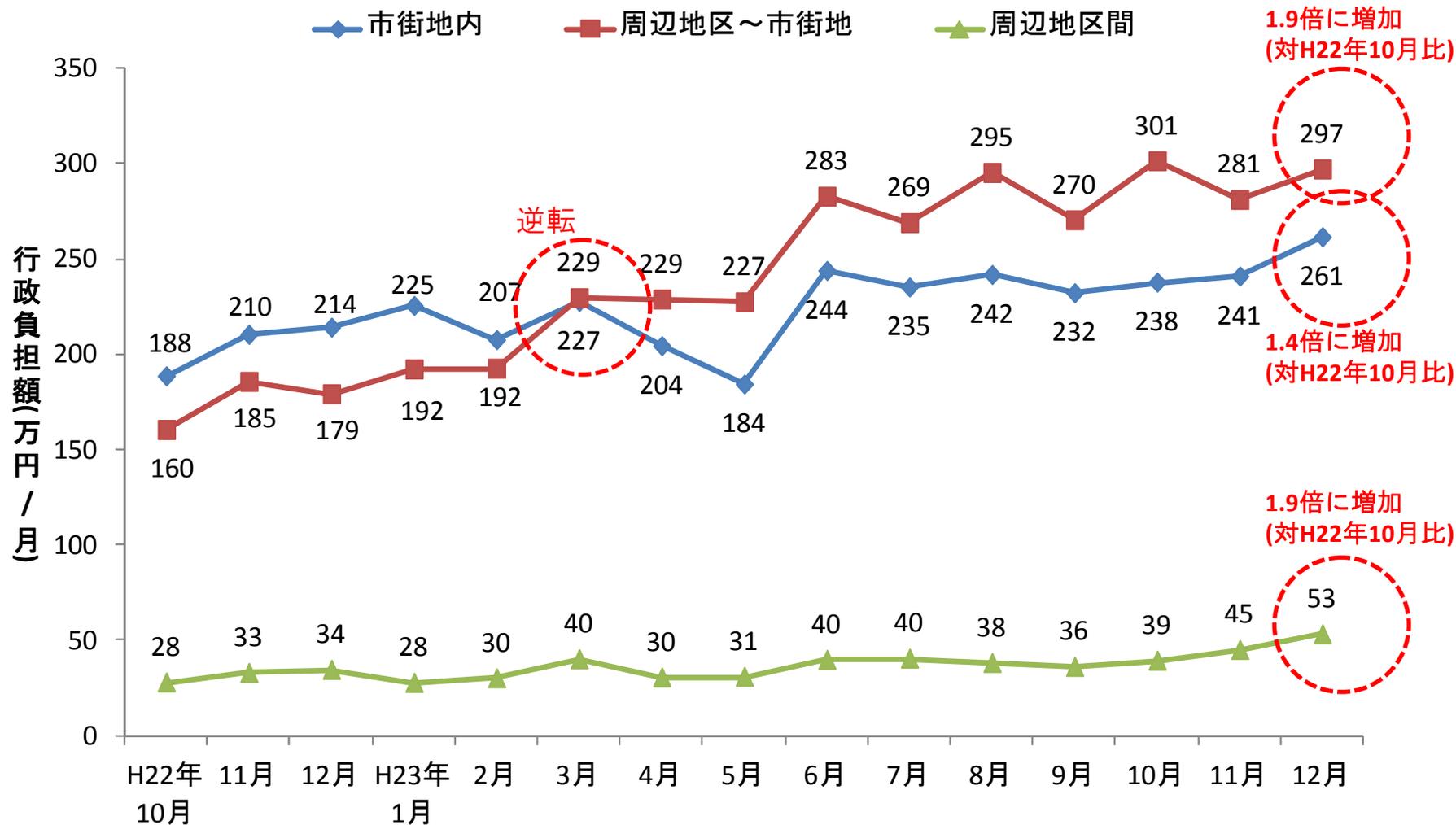
○周辺地区(下田、北、南地区)～市街地への移動が大きく増加



1 利用者数等の実績

(3) 起点終点別の行政負担額

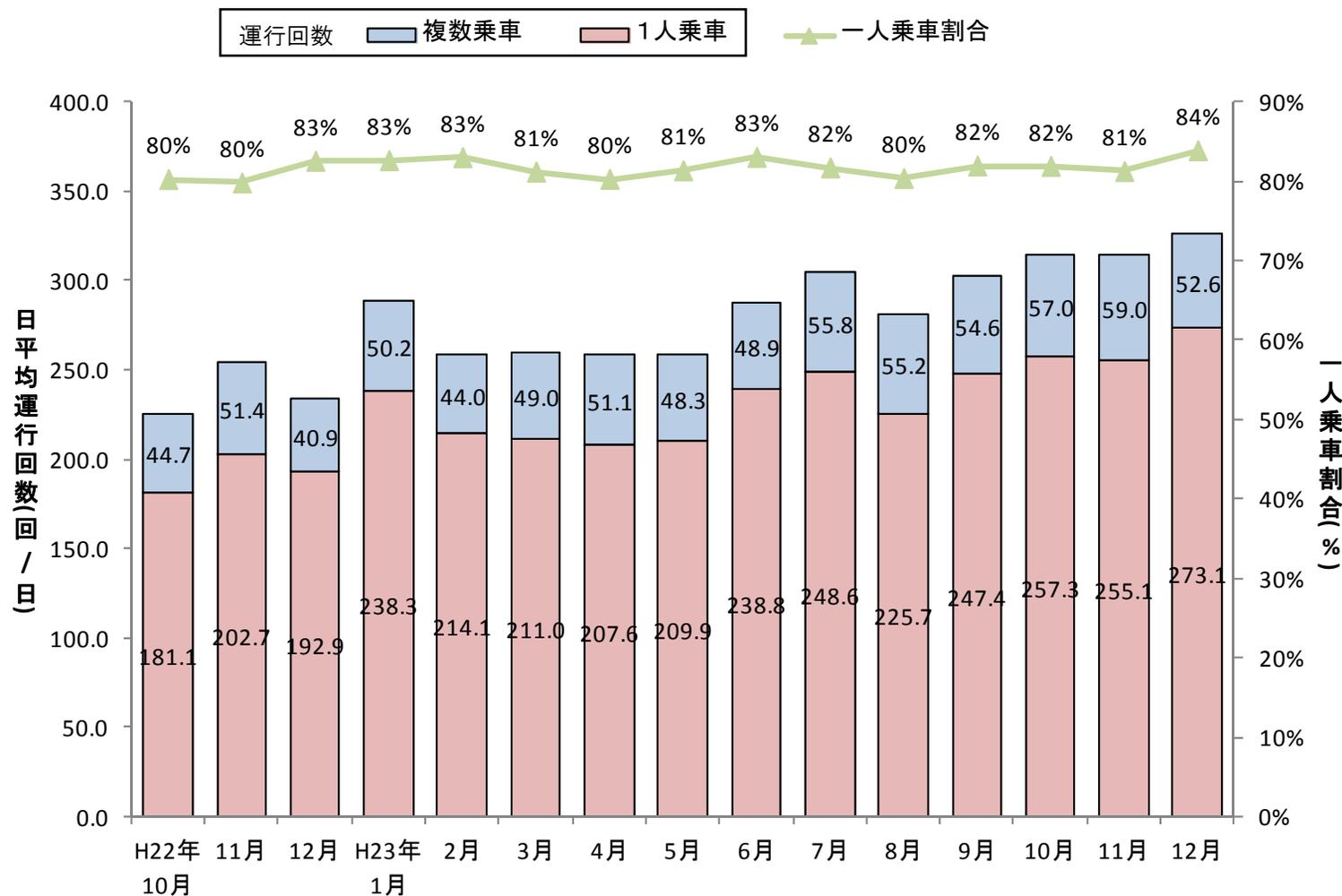
○周辺地区～市街地間の利用における行政負担額が、H23年3月に市街地内の負担額を上回った。



1 利用者数等の実績

(4) 一人乗車割合

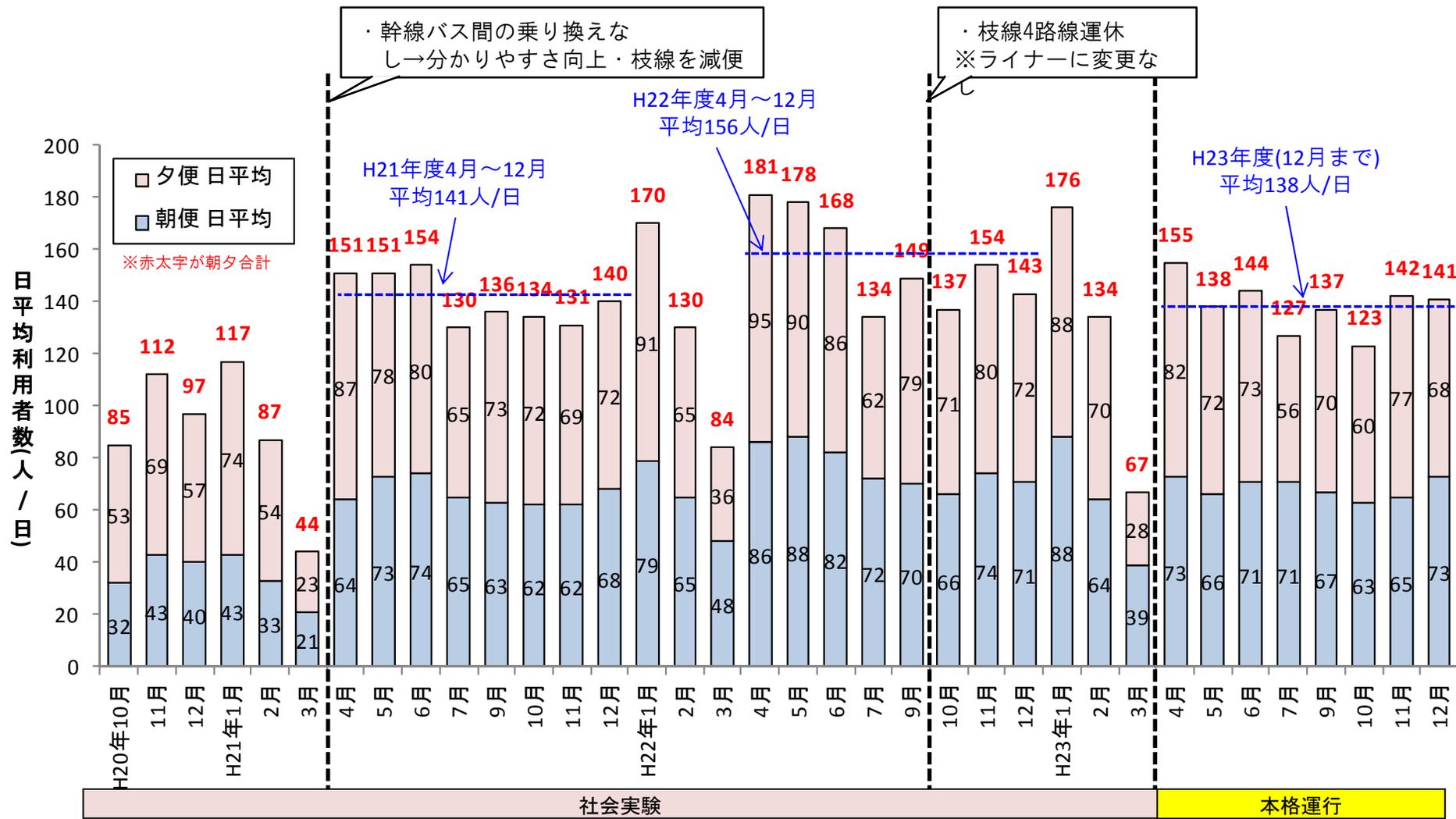
- 利用の増加に伴い、一人乗車の回数も増加。
- 全体に対する一人乗車割合は、80～84%で推移し、依然として高い状況。



1 利用者数等の実績

1.2 高校生ライナーの利用者数推移(幹線ライナー)

○H21年度以降利用が伸びていたが、H23年度は12月までの平均で減少に転じた。

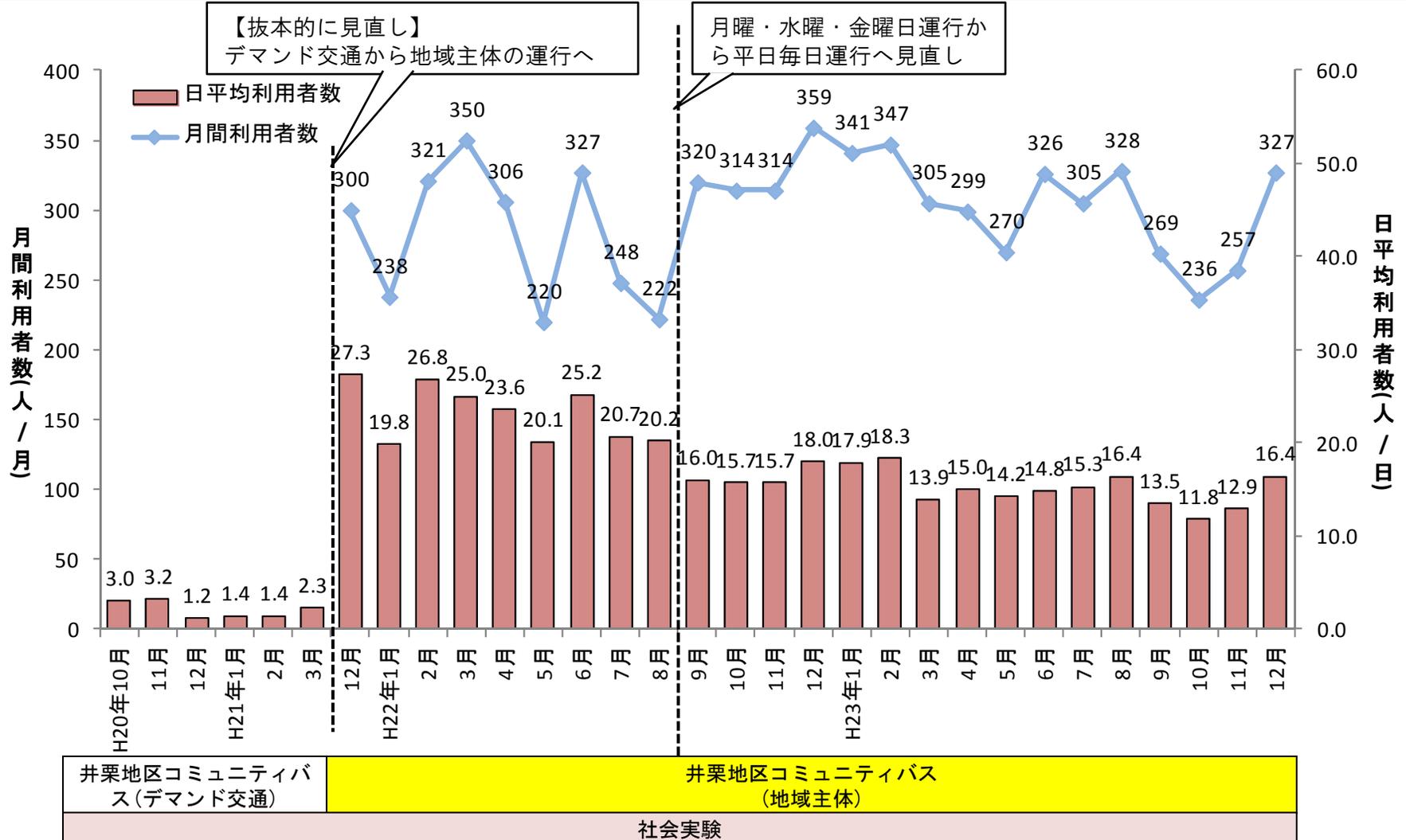


※8月は夏休みのため除く

1 利用者数等の実績

1.3 井栗地区コミュニティバスの利用者数推移

○平成22年9月の運行日拡大により日平均利用者数は減少したが、月別利用者数は多少の変動があるものの、概ね300人前後で推移。



(1) 実施概要

平成23年度お客様アンケート 【今回実施】

■ 配布回収方法

- ・ タクシー事業者の協力により、ひめさゆり車内で配布し、返信用封筒(宛先三条市)で回収

■ 配布時期

- ・ 平成23年12月19日(月)～28日(水)

■ 配布数

- ・ 1000票

■ 回収数

- ・ 187票(回収率18.7%)

【参考】平成22年度お客様アンケート 【昨年度実施】

■ 配布回収方法

- ・ タクシー事業者の協力により、三条市デマンド交通車内で配布し、返信用封筒(宛先三条市)で回収

■ 配布時期

- ・ 平成22年12月10日(金)～22(水)

■ 配布数

- ・ 500票

■ 回収数

- ・ 129票(回収率25.8%)

(2) 調査結果 ※主な結果のみ掲載

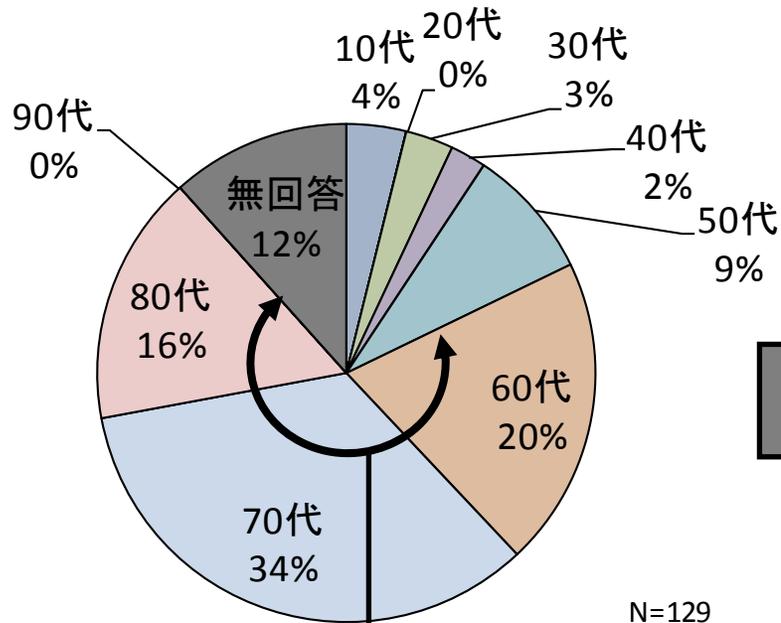
利用者の年齢層

○アンケート結果によると、利用者のうち60歳以上が占める割合は、昨年度70%に対して、今年度では84%と大きく増加しており、時間の経過とともに高齢者の生活の足として、より一層定着していること

が伺える。

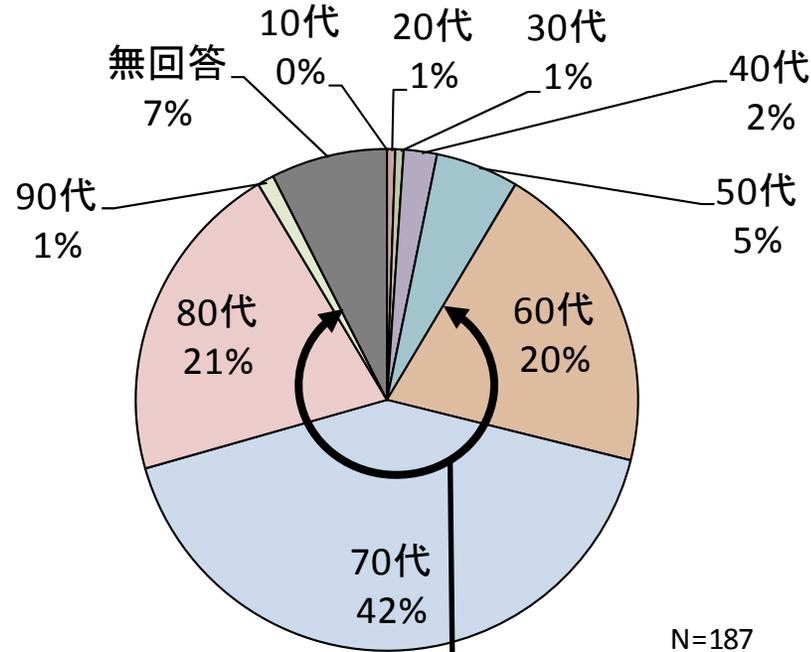
(利用者の年齢層【昨年度との比較】)

H22年度



60歳以上 70%

H23年度(今回)

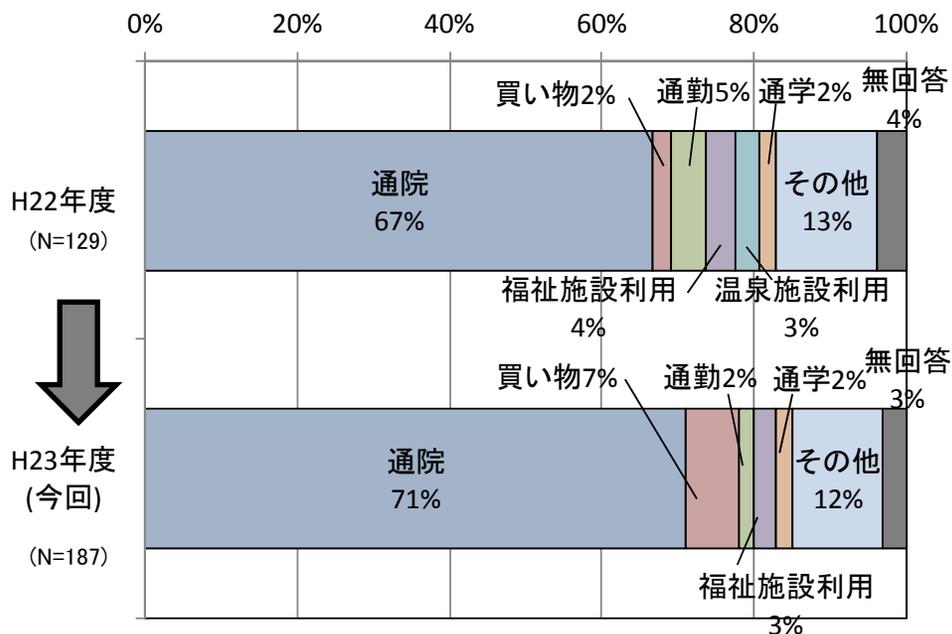


60歳以上 84%

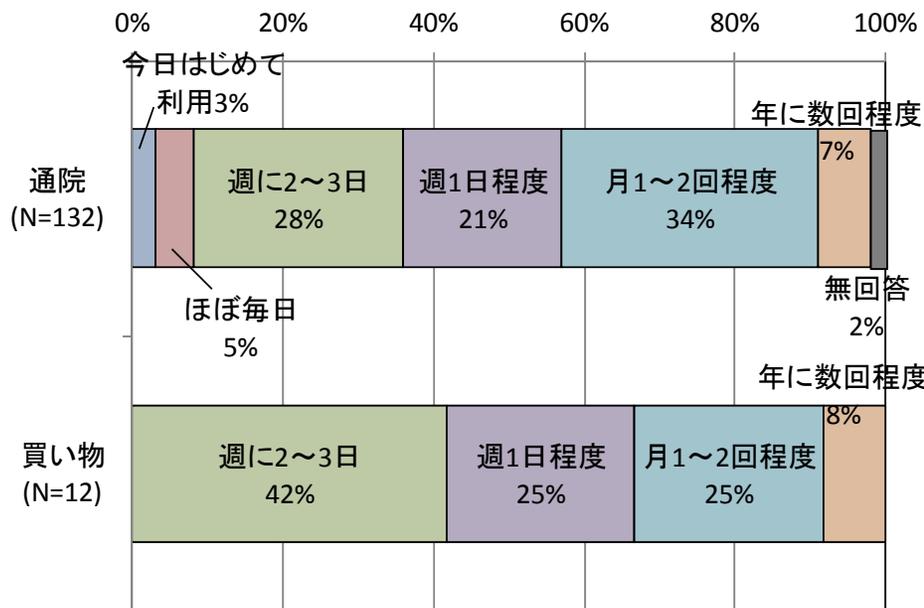
利用目的と利用頻度

- 昨年度に比べて通院・買物利用の割合が増加
- 目的別の利用頻度を見ると、通院利用者の5%がほぼ毎日利用。

（利用目的割合【昨年度との比較】）



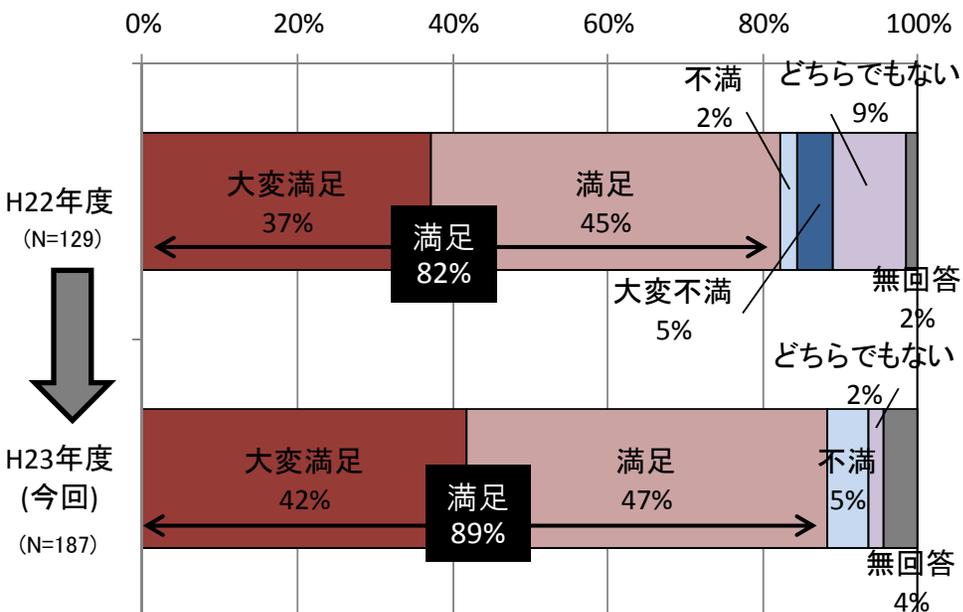
（利用目的別の利用頻度【H23年度】）



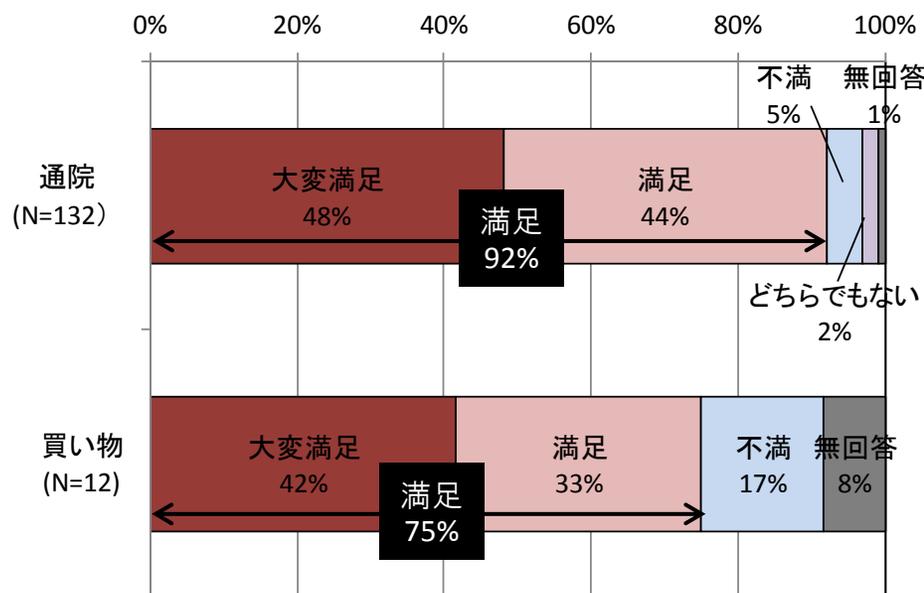
利用満足度

- 利用満足度は昨年度82%から今年度89%と7ポイント増加。
- 利用目的別に見ると、通院の満足度は92%と非常に高い。

(利用満足度【昨年度との比較】)



(利用目的別の利用満足度【H23年度】)

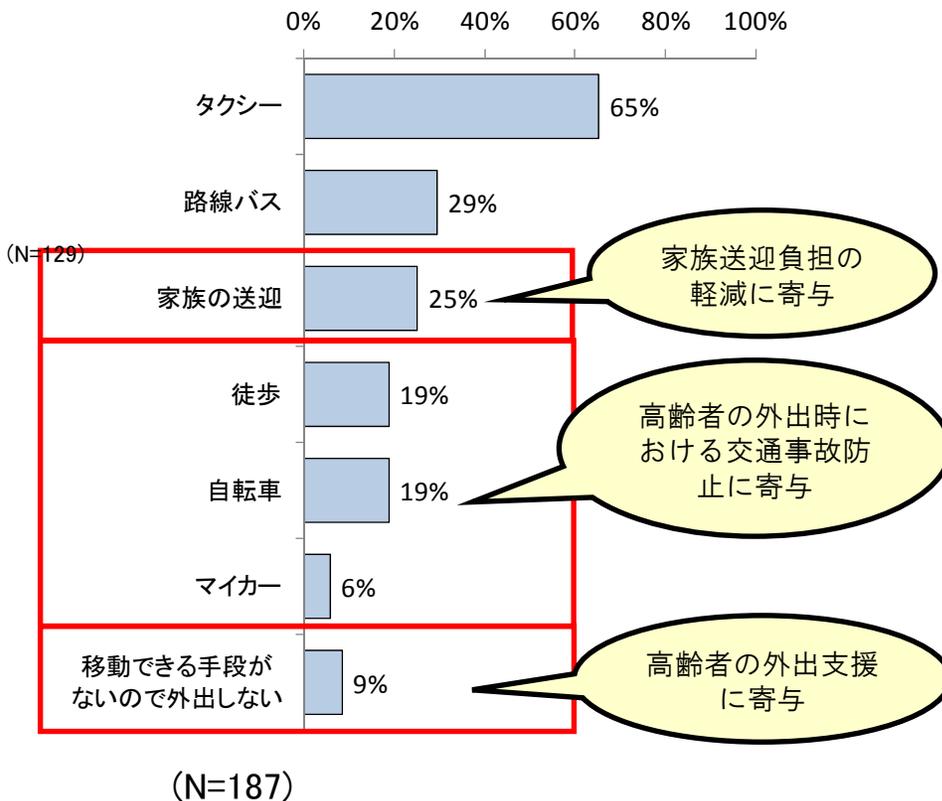


2 ひめさゆりお客様アンケート

利用効果

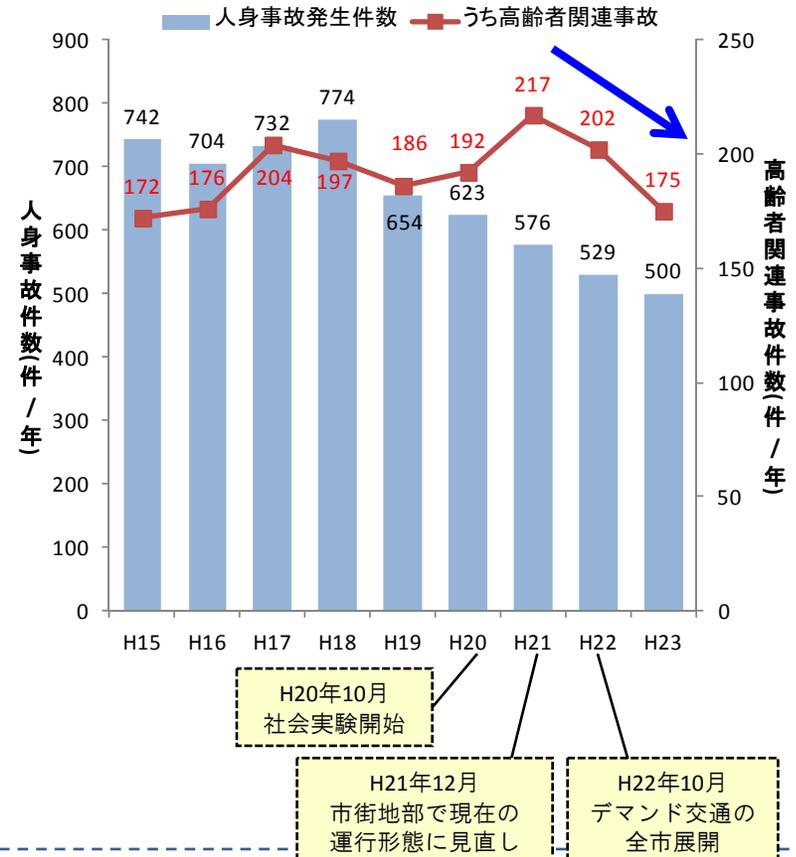
- ひめさゆりがない場合の選択移動手段を見ると、25%が「家族送迎」、9%が「外出しない」と回答しており、家族送迎負担の軽減や高齢者の外出支援に寄与したと言える。
- また、利用者の20%が「徒歩、自転車」、6%が「マイカー」と回答しており、外出を支援するだけでなく、高齢者の交通事故防止にも寄与したと考えられる。

(ひめさゆりが無い場合の選択手段【H23年度】)



(参考) 三条市の人身事故発生件数

資料) 「三条市の交通事故」
三条市環境課

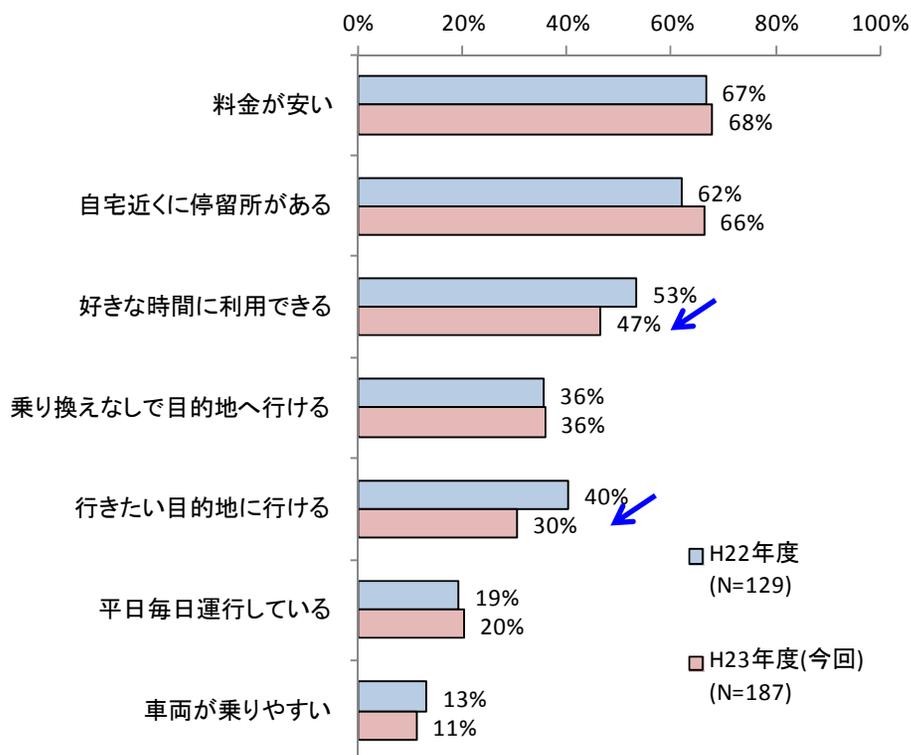


2 ひめさゆりお客様アンケート

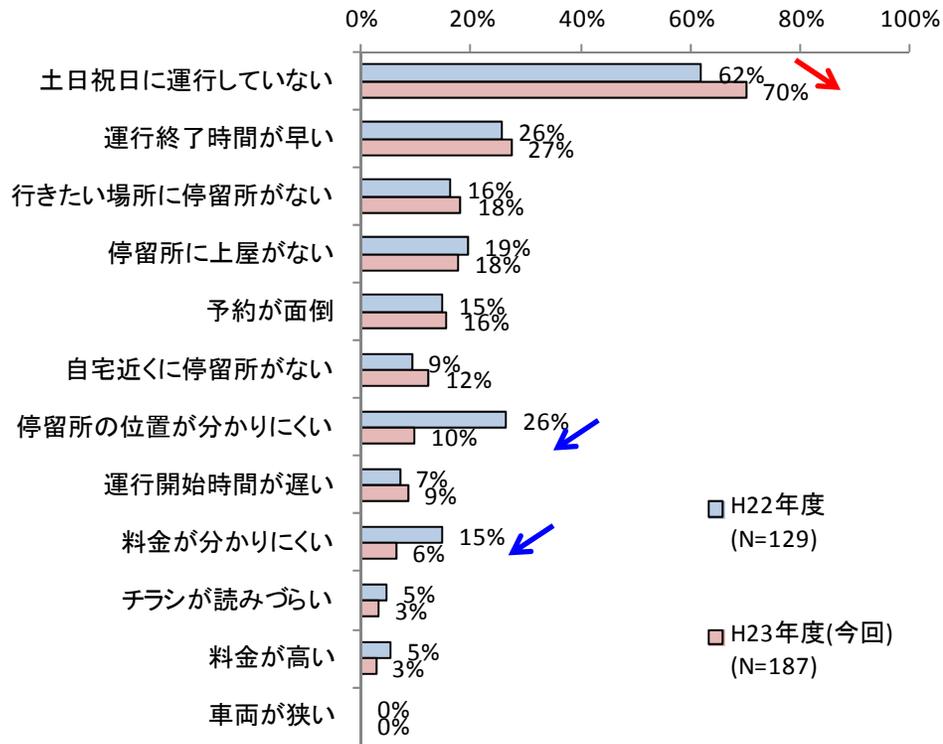
ひめさゆりの評価(良かった点、悪かった点)

- 良かった点では、「好きな時間に利用できる」「行きたい目的地に行ける」の割合が減少。
→ 利用者数の増加に伴い、予約時間等に制約が生じている可能性がある。
- 悪かった点では、「土日祝日に運行していない」という割合が増加したが、逆に「停留所の位置が分かりにくい」「料金が分かりにくい」という意見の割合は減少。
→ 「三条市公共交通マップ」の全戸配布の効果や利用に対する慣れの表れと考えられる。

(良かった点【昨年度との比較】)



(悪かった点【昨年度との比較】)



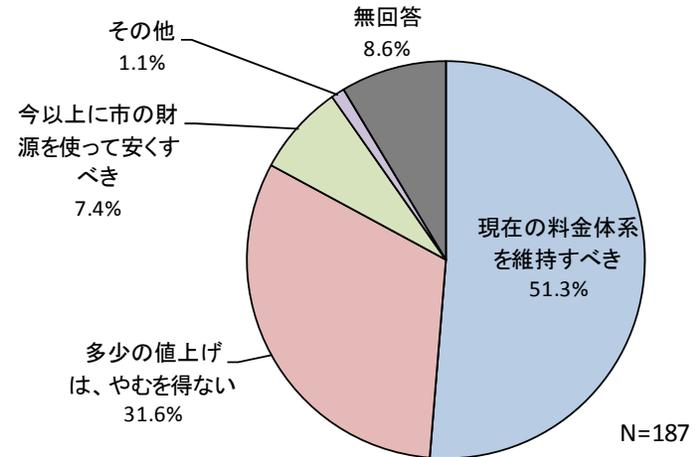
※昨年度から5ポイント以上変化した項目のみ矢印により増減を表示

2 ひめさゆりお客様アンケート

今後の値上げに対する意見

- 利用者の半数が「現在の料金体系を維持すべき」と回答。
- 一方で約3割が「多少の値上げはやむを得ない」と考えている。

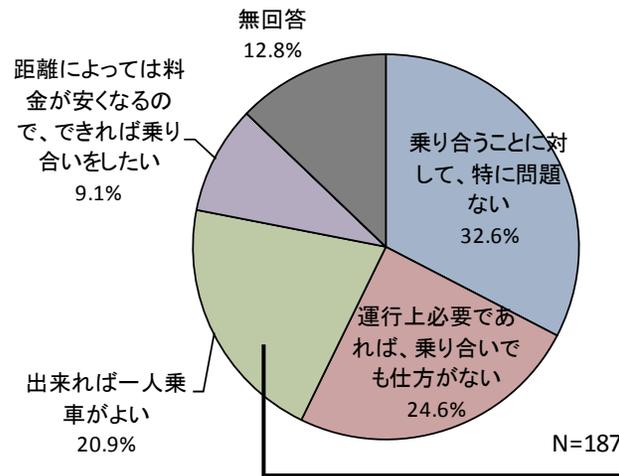
(ひめさゆりを維持するための値上げに対する意見【H23年度】)



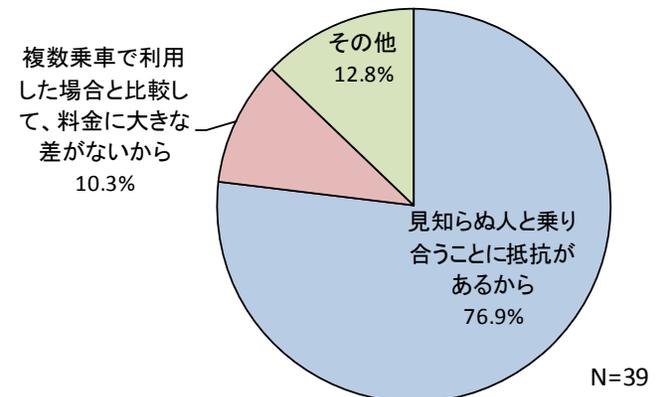
他人と乗り合うことに対する意見

- 利用者の約7割が「乗合が問題ない」または「仕方がない」と考えている。
- 一方で、利用者の約2割が「出来れば一人乗車が良い」と考えており、その理由の約8割が見知らぬ人と乗り合うことに抵抗を感じているためと回答。

(他人と乗り合うことに対する意見【H23年度】)



一人乗車が良い理由



3 目標達成状況

(目標達成状況)

社会実験	H22年度	目 標	H23年度 (12月まで)
三條市デマ ンド交通 「ひめさゆり」 【H23年6月1日 ～本格運行】	(H22年10月見直し後～H23年3月) ○利用者数 310.0人/日 ○収支率 39.1% ・運賃収入 1,675万円/6ヶ月 ・運行経費 4,279万円/6ヶ月 ○1ヶ月当たり行政負担額 434万円 ・行政負担額 2,604万円/6ヶ月	○利用者数 300人/日以上	(H23年4月～12月) ○利用者数 358.3人/日 ○収支率 38.6% ・運賃収入 3,082万円/9ヶ月 ・運行経費 7,982万円/9ヶ月 ○1ヶ月当たり行政負担額 544万円 ・行政負担額 4,900万円/9ヶ月
高校生通学 ライナーバス 【H23年4月1日 ～本格運行】	(H22年10月～H23年3月) ○利用者数 134.9人/日 ○収支率 70.7% ・運賃収入 526万円/6ヶ月 ・運行経費 744万円/6ヶ月		(H23年4月～同年12月) ○利用者数 136.5人/日 ○収支率 83.5% ・運賃収入 780万円/9ヶ月 ・運行経費 933万円/9ヶ月
井栗地区 コミュニティ バス 【社会実験中】	(H22年9月～H23年3月) ○利用者数 16.4人/日 ○収支率 20.0% ・運賃収入 46万円/7ヶ月 ・運行経費 227万円/7ヶ月	○利用者数 30人/日 ○収支率 26.8%	(H23年4月～12月) ○利用者数 14.5人/日 ○収支率 28.1% ・自治会費 87万円/9ヶ月 ・運行経費 310万円/9ヶ月

評価

◆三條市デマンド交通ひめさゆり

- ・市民の足として定着し、利用が増加傾向にあるが、その一方で行政負担額が増加している。

◆高校生通学ライナーバス

- ・利用者は若干減少しているが、利用は安定しており、下田地区の高校生の重要な足として定着している。

◆井栗地区コミュニティバス

- ・依然として利用が伸び悩むものの、地域主体による運行開始後2年以上経過し、概ね利用が安定しており、収支率が目標を達成できた。
- ・サービスレベルから考えれば、1日15人程度が限界かつ適性な需要であると考えられる。

4 来年度の対応とスケジュール

(平成24年度の対応)

◆三条市デマンド交通ひめさゆり

- ・持続可能な運営に向けて行政負担額の低減に向けた対策を検討する。

◆高校生通学ライナーバス

- ・現在の運行形態を当面継続する。
- ・下田地区の高校生数の動向や利用者数の動向を注視し、必要に応じて広報を徹底する。

◆井栗地区コミュニティバス

- ・サービスレベルや井栗地区の人口規模を考慮すれば、1日平均15人の需要が妥当であると考えられることから、現在の需要に見合った運行時間や便数に改め、平成24年4月1日から本格運行に移行する。

(今後のスケジュール)

- 4月上旬 井栗地区コミュニティバスの本格運行開始
- 中旬 協議会開催(予定)
 - ・H24年度予算について
 - ・H24年度フィーダー系運行の評価について など
- 6月 中旬 協議会開催(予定)
 - ・H23年度決算について
 - ・H25年度フィーダー系運行計画について など
- 下旬 国へ事業計画書の提出